

シンポジウム

福岡県行橋市における健農連携プロジェクト

産業医科大学公衆衛生学

松田晋哉

少子高齢化の進行により我が国の社会保障制度の持続可能性に関して不安が高まっている。財政的にこの仕組みを維持可能なものにするためには、社会保障の支出を減らすか、収入を増やすしかない。可能な対策の一つは ageless 社会(生涯現役社会)の実現を図ることである。演者らのこれまでの研究成果では、就業は高齢者のいきがいを高め、また健康度を高めることにより、医療費や介護給付費に抑制的に働くことが明らかとなっている。

しかしながら、技術革新の速度の早い現在の状況で、加齢に伴う心身の機能の低下に抗いながら同じ職域で働き続けることは容易ではない。したがって、生涯現役社会を実現するためには、高齢者の就業が可能になる別の枠組み(=労働市場)を地域に複数用意することが必要となる。しかも、それは生きがいにつながるものでなければならない。なぜならば、演者らのものも含めてこれまで行われた多くの研究で生きがいが高齢者の心身両面の健康にポジティブに寄与することが明らかになっているからである。

また、そうした高齢者就労は仲間づくりを通じてコミュニティづくりにも寄与するものであることが望ましい。なぜならば、社会とのつながりが維持されていることは、高齢者の心身の健康にとって重要なことだからである。

以上のような知見に基づき、演者らの研究室では 2019 年度から、福岡県行橋市において、市関係者、JA 関係者、そして第一生命保険株式会社と共同で、「農業 de 健康寿命伸ばそう!!プロジェクト」を行っている。本シンポジウムではその概要について紹介する。